

令和四年度学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校長

○スクール・ミッション

様々な生徒の多様なニーズに応じた「受け止め、支え、気づき・気づかせ、伸ばす」個別最適な学び教育を行い、自信と自尊感情を育て、才能開花を支援し進路実現・自己実現ができる地域に開かれ信頼できる学校

修得主義と履修主義等の適切に組み合わせ、探求的な学習を通し、主体的・対話的学びを実践する全国を視野に置いた中学校・大学・大学院につながる新たな通信制高等学校

○スクールポリシー

・アドミッション・ポリシー 人生の機微

現状に様々な課題を持ちながらも、少しでも変えていきたいという思いや意欲を持つ生徒

・カリキュラム・ポリシー

時代と共に歩み、時代の要請と社会の変化に対応する斬新で独自性に富んだ、時代を創っていく教育

自己の未来デザインの形成と進路実現・自己実現をめざした教育

Edtech を積極的に活用し学習ログを活かした多様なニーズの応じた多様な教育内容

向陽台コンソーシアムに基づく地域・関係機関との連携によるネットワーク型の教育

・グラデュエーション・ポリシー

良識ある立派な市民として時代の変化に対処できる優秀な人材

自他の個性を認め合い、自ら一步前に進める人物（目指す人物像）

経営計画推進理念

「時代は人が造り、人は学ぶことによって創られる。自らの改革なくして成長はない」

(参考) 従前より示してきた本校の精神・目標等

建学の精神	①良識ある立派な市民の育成 ②時代の変化に対処できる優秀な人材の育成
教育目標	「社会で生きる力を育む。市民として社会に貢献できる確かな人物の育成、豊かな知性の育成」 ⇒グラデュエーション・ポリシー 「自己の未来デザインの形成と進路実現をめざした教育を実践する」 ⇒カリキュラムポリシー
教育方針	「時代と共に歩み、時代の要請と社会の変化に対応する斬新で独自性に富んだ、時代を創っていく教育をめざす」 ⇒カリキュラム・ポリシー
目指す人物像	「自他の個性を認め合い、自ら一步前に進める人物」 ⇒グラデュエーション・ポリシー
5つの学校像	(1) 学び直しにより自信と自尊感情を育て、個性を活かした心を育てる学校 (2) 能力開花・才能開花に積極的にチャレンジしグローバル人材を育成できる学校 (3) 不登校生徒等全国の学びの場のない生徒への支援を積極的に展開する学校 (4) 地域一体地域循環還元型教育を進め、地域創生に貢献する活動を積極的に行う学校 (5) 通信制・単位制高校として共生社会の実現に貢献する教育を行う学校

重点目標

- 1 生徒一人ひとりに応じた才能開花・学力向上と進路実現への支援
- 2 本人や保護者の思いに寄り添い自己実現を図る丁寧な指導・支援
- 3 広域通信制・単位制のソサエティ 5.0 時代の教育を目指し EdTech を活かした全国展開を図る質の高い教育の提供と実践の発信

目指す学校像

- 変化を怖れず次の時代に挑戦する学校
- 安全で安心できる地域に開かれた信頼される学校
- 中・高・大・大学院につながる新たな通信制高等学校

2 中期的目標 令和2年度～4年度

I 外的環境の変化による危機意識の共有と課題対応を図る学校の特色づくり

「向陽台ロマン」の実現と学園の一本化

(1) 変化を怖れず次の時代に挑戦する学校

- ①特色ある取り組みと EdTech を活用した新たな向陽台高等学校づくり
- ②学園の新中長期計画（令和3年からの5年計画）に基づく学園の一本化を目指した学校づくり
- ③EdTech を活用した各コースの見直しと学園資源の活用
- ④オンライン授業を含む EdTech を徹底的に活用した教育に挑戦するとともに、支える教育の良さを融合させた向陽台教育実践の発信
- ⑤技能連携校との教育圏域の拡大・EdTech の活用による連携の充実
- ⑥支える教育と才能開花を支援する教育に向けたコースの再編と「向陽台コンソーシアム」による関係機関との連携事業の推進
- ⑦出口の見える化を図り、他の通信制高等学校との違いを明確に発信する
- ⑧学校基礎データの共有と学園・学校マネジメントの意識化

(2) 安全で安心できる信頼される学校

- ①外的環境の変化による生徒の減少に対応した学校体制の整理と、技能連携校との充実した連携の検討
- ②進学実績、就職実績や資格取得の状況等、出口の見える化推進
- ③本校の教育力の充実・EdTech 活用等学校力量の向上による新たな生徒層の獲得・拡大と発信
- ④学びを止めない教育の推進
- ⑤学校基礎データの保護・運用管理責任の明確化

II 学園及び本校の未来を託す人材の育成と学園・学校の良さを継承と教育のさらなる充実・発展

(1) マネジメント力の継続的な育成と EdTech の活用力の向上

- ①学校での育成観点の整理とマネジメント力の向上
- ②信頼をベースにした人材育成と女性の登用
- ③オンライン発想に対応できる人材と登録・相談機能の充実

(2) 指導力・授業力など教育資質を高めるチャレンジの支援と実績

- ①チャレンジ力とプラス思考の積極的評価・支援
- ②若手・ミドルリーダーの積極的登用による人材育成・マネジメント力の育成
- ③受験指導に対応できる教科指導力とカウンセリングマインドの向上

III 一体感のある機動的でフレキシブルな組織づくりと学園一本化に向けた対応

(1) 校務分掌組織の見直しと計画的移行による学校改革の推進

- ①EdTech を活用した分掌の整理と世代のスムーズな移行
- ②戦略会議やプロジェクトチームへの若手教員の参加とアイデア実現
- ③オンラインを活用した業務の見直しとオンラインの積極的活用の展開事例の発信

(2) ミドルリーダーの権限と責任意識をもとにしたプロジェクトチームによる学校課題の解決

- ①プロジェクトチームを活用した学校課題の解決に向けた学校改革の推進
- ②教員層の役割分担と機能的・一体的・迅速的な組織の活性化方策
- ③本校と技能連携校との EdTech の活用と関係の強化及び教育圏域の拡充と拡大

IV EdTech を活用し全国展開する学校づくりと学園の一本化による「向陽台ロマン」の実現を図る

(1) 危機意識の共有と学校の特色づくり

- ①「EdTech プロジェクト」と連携した全国展開を図る新たな特色ある向陽台高等学校づくり
- ②中期経営期計画（5年計画）に基づく学園での一本化を目指した学校づくりのなかでの特色づくり
- ③新たに主体的に学ぶ生徒層を対象とし、EdTech を最大限に活用したオンデマンド授業・eラーニング等による「学習者主体」の教育内容の構築
- ④中学、高校、大学、大学院へつながる「22世紀の教育への挑戦」を視野にした通信制教育の検討
- ⑤オンライン授業を含む EdTech を徹底的に活用した教育による「生徒に寄り添う支援の教育」の良さを融合させたオンラインと実体験を組み合わせた教育カリキュラム作成の検討
- ⑥学習者主体の教育と支える教育と才能開花を支援する教育に向けた「21世紀の教育」を視野に置いたコースの再編・モデルカリキュラムの作成と発信
- ⑦「向陽台コンソーシアム」による関係機関との連携したキャリア教育の推進

(2) 学園の一本化を目指した取り組みの推進

- ①G Suite を活用したオンラインでの取り組み実践とまとめ等の学園 LMS を活用した向陽台と摂陵の実践と特徴の共有。
- ②進路指導における指導の工夫・特徴の共有。進学指導での活用と LMS 「manaba」の検討。
- ③「生徒に寄り添う教育」「学びを止めない教育」「学習者主体の教育」の特徴を活かした教育実践の展開
- ④学園ホームページの設置・活用に向けた向陽台ホームページの充実
- ⑤本校と技能連携校との EdTech の活用と関係の強化及び教育圏域の拡充

V 多様なニーズに応じた教育の EdTech を徹底活用した「学びを止めない教育」に基づく展開を図り、学園教育クラウドプラットフォーム等も活用した「主体的学習を支える教育」を充実させ「未来の教室」を目指し「学校力量」を高める

(1) ICT活用による学び直しとチャレンジ精神を高める授業実践力の向上

- ①Google Workspace による5期制の特色を活かしたオンライン授業での個別最適化の指導法と補習等の個に応じた指導での LMS 「manaba」等を学習ログの活用
- ②双方向の学習アプリ等を活用した授業や教育相談の実施による本校の教育の特色の明確化
- ③学校クラウドの検討を通じた早稲田摂陵高校と連携した manaba 等を視野においた教育クラウドプラットフォームを活用した主体的学習

(2) キャリア形成・就労支援の指導力向上

- ①大学進学と就職に向けた進路指導の特徴
 - ・各コースの特徴の明確化とコースに応じた次の時代を見据えた指導内容の検討
 - ・難関大学進学を目指したコースの設置と進路サポートコース・早稲田摂陵高校と連携した指導の充実・Web教材の作成
- ②丁寧な教育相談と双方向アプリを活用した相談体制の充実
- ③キャリア教育プロジェクトによる多様な生徒のニーズに応じたモデルカリキュラムの作成と具体化

(3) コミュニケーション力の向上とカウンセリングマインドの育成

- ①社会的スキルの指導講座や学校設定教科等を活用した特色ある講座の開設
- ②オンライン等による指導教材・方法の作成検討

VI 「向陽台コンソーシアム」の発想に基づき関係機関等と連携したキャリア教育を充実させ、特色ある教育の充実と発信

(1) HPの充実と SNS 等を活用した本校の特色ある授業や行事等の Web 発信力を高め、社会的意義・役割の周知と協力関係の構築

- ①主体的に学ぶ生徒層のモデルカリキュラムの発信と進学実績の向上
- ②地域一体地域循環還元型教育の松阪市と連携した事業推進と発信
- ③ソサエティ 5.0 の新たな社会を視野にインクルーシブ教育をもとにした共生教育推進モデル教育の実施
- ④マスコミ・府内公立学校・保護者・地域等の通信制高校のイメージ改革推進

(2) 「向陽台総合学院」（松阪市）を高等専修学校での ICT 活用の全国のモデル校とし技能連携校等組織的関係の充実を図る

- ①EdTech 活用による学び直しと自尊感情を育てる教育の展開
- ②「地域一体地域循環還元型教育」の実践とキャリア形成・就労支援の充実
- ③地域と時代に応じた教育実践の充実

(3) 本校の学校力量を高める教育連携の推進

- ①不登校生徒を対象とした義務教育段階からの市町村連携モデルの実施と中学・高校・大学・大学院へつながる通信制を活用した教育の共同研究
- ②次の時代のニーズを満たす「eスポーツ」や「ドローン」、「ロボット」等での事業所と連携した学外学修の推進と特色ある講座設置
- ③ガンバアカデミーや才能開花を図る関係機関と連携した人間教育の充実
- ④心理面で課題のある生徒への難関大学進学と基礎学力保障を図る民間との連携による「向陽台指導」の確立と摂陵指導法の融合
- ⑤22世紀型教育での EdTech を活用した通信制高校の可能性を探る大学等研究機関との連携事業の実施と研究校指定の獲得

3 学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見

自己評価アンケート結果と分析(令和4年度)	向陽台高等学校 技能連携校協議会からの意見(令和4年度)
<p>○ 調査対象・対象数(令和4年11月に実施) 生徒アンケート：491名(新卒コース1年生相当、登校型コース1年生～3年生相当、総合コース、進学コース3年生相当) 教職員アンケート：42名</p> <p>○ 調査方法 WEB アンケート (Google フォーム)、無記名方式</p> <p>○ 回収数 生徒：491名分、教職員：42名</p> <p>【集計結果】</p> <p>○ 生徒アンケート評価概要 昨年度より、大幅な伸び(改善)を示した4項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の先生は、生徒の悩みや相談に丁寧に対応してくれる。 ・本校には、他校にない特色ある教育活動が行われている。 ・本校では、進路についての情報をよく提供している。 ・本校には、自分が学びたいと思える講座が多数ある。 <p>昨年度より、減少に転じた1項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校には、授業の教え方に様々な工夫をしている先生が多い。 <p>○ 教職員アンケート評価概要</p> <p>昨年度より、10%以上改善として回答された11項目</p> <p>〈情報管理〉本校の教職員は服務規律への自覚が高い。 〈進路指導〉生徒が望ましい人生観を身に付けられるよう系統的なキャリア指導を行っている 〈生徒指導〉学校行事を生徒にとって魅力あるものとするために、工夫や改善を行っている。 〈教職員研修〉研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。 〈教科外活動〉生徒一人一人が興味・関心、適正に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている。 〈学習指導〉本校の教育課題について、教職員で日常的に話し合っている。 〈生徒指導〉カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行う体制になっている。 〈生徒指導〉部活動の活性化について、工夫して取り組んでいる。 〈学習指導〉学校から保護者宛てに発行される公文書の内容は教職員への周知が図られている 〈教職員連携〉教職員間教科間の相互理解が十分になされ、信頼関係にもとづいて教育活動が行われている。 〈教科指導〉教科指導において視聴覚機器や情報機器が積極的に活用されている。</p> <p>昨年度より、10%以上減少として回答された3項目</p> <p>〈教育環境〉各教科の備品や教材教具が十分に整備されている。 〈情報管理〉個人情報保護の観点から生徒の個人情報に関する管理システムが確立している。 〈教科指導〉他の教員の授業を見学する機会がよくある。</p> <p>良好で回答された16項目</p> <p>〈教科指導〉「わかる授業」をめざし、授業の組み立て等の準備を十分にしている。 〈教科指導〉生徒の実態を踏まえ教科として指導方法や学習形態の工夫改善を行っている。 〈私学の独自性〉本校には、他校に無い特色ある教育活動が行われている。 〈教職員連携〉校内ですれ違った他の教員とは、挨拶したり気軽に話しかけたりしている。 〈学習指導〉教育課程は学習指導要領に沿っている。 〈学習指導〉年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。 〈教科指導〉教科指導において視聴覚機器や情報機器が積極的に活用されている。 〈情報公開と開かれた学校づくり〉学校ホームページで可能な範囲を情報公開している。 〈教科指導〉各教科において、学習内容の基礎・基本を明確にし、教材の精選・工夫を行っている。 〈人権教育〉本校の人権教育は、差別や偏見のない社会を目指す生き方につながる指導を行っている。 〈人権教育〉体罰やセクシャルハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている。 〈私学の独自性〉本校では、生徒や保護者のニーズに応えた教育活動が行われている。 〈教職員連携〉本校の教職員は服務規律への自覚が高い。 〈進路指導〉生徒一人一人が興味・関心、適正に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている。 〈教科指導〉年間の学習計画および評価の基準や方法について、各教科で話し合っている。 〈学習指導〉本校の教育課題について、教職員で日常的に話し合っている。</p> <p>課題があると回答された2項目</p> <p>〈教科指導〉他の教員の授業を見学する機会がよくある。 〈運営組織〉教職員の校務分担が公平になされている。</p> <p>【まとめ】</p> <p>○ 本年度オンラインによる受講登録がスタートした。校内施設設備においてもICTに特化した教室の整備や、電子黒板を導入した教室を増えEdtech活用のための教育環境が更に推進した一年であり、教科指導に視聴覚機器や情報機器を積極的に活用する教員が確実に増えた。</p> <p>○ 新しい教務システムを導入したことによるシステム上の様々な不具合の発生や情報管理の観点からの意見や課題も発生した教務部を中心に教職員一体となって乗り越えることができた。</p> <p>○ オンライン環境の整備の推進と共に本校の教育の特徴である個々の生徒のニーズに対応した「生徒一人ひとりに応じた才能開花・学力向上」「進路実現への生徒のニーズをくみ取る支援に力点を置いた指導」の結果は生徒及び教員のアンケート結果において「進路指導」「特色ある教育活動」「生徒指導」が良好な項目として評価されている。進路部、生徒保健部、生徒支援部を中心とした教職員の組織的一体的指導の成果である。</p> <p>○ 次年度以降はオンラインと対面、双方の長所と短所をブラッシュアップしハイブリット型の教育活動を実現できるようより組織的一体的な相談体制・支援体制の構築を図っていきたい。</p> <p>○ 校務分担の公平化については依然として厳しい評価にある。専任教員が減少する中での業務の在り方を学校デジタル化を進めるなか精査していく必要がある。教科指導における教員の確保も今年度も大きな課題としてあった。他の教員の授業を見学する機会も減少しているとの評価につながる。</p> <p>○ 今後の本校の教育の質と内容の維持・向上のためにも教職協働の体制を一層推進し学校デジタル化を進め業務内容を精選し授業をより充実させる体制づくりが喫緊の課題である。多様なニーズに応じた生徒の授業満足度を高めるためにも次年度は重点的に取り組まなければならない。</p>	<p>○向陽台高等学校 技能連携校協議会からの意見</p> <p>向陽台高等学校技能連携校協議会は、向陽台高等学校と技能連携校双方の学校教育において、相互発展と運営の円滑化を目的としながら推進するとともに、連携による高等学校教育の振興を目的に設置された会。</p> <p>【自己評価アンケート結果と分析に対して】</p> <p>○「コロナ禍」におけるオンラインを利用したGoogle Workspaceの活用は、3年目を迎え、生徒・教職員に浸透してきていることが窺える。生徒との繋がりを大切にしながら、ICT活用で新たな学校運営の構築を図っていただきたい。</p> <p>○技能連携校と常に情報共有しながら、ICT教育の充実・発展を目して、各校の学校運営に寄与できる体制づくりが求められている。さらには、ICT運用によるペーパーレス化も実現しながら、時代に即した通信教育の展開と学校運営の効率化を推進していかなければならない。</p> <p>○通信教育のパイオニアとして、情報発信を提供しつつ、個々の生徒に発信できる教育環境の充実を図っていただきたい。</p> <p>○広域通信制の利点を生かしたりリモート学習の充実による在宅学習の提供も今後求められてくることが予測される。</p> <p>○教職員アンケート結果において、昨年度より改善した項目が多くみられ、日頃の教職員の努力が覗える結果であり、今後も持続できるようお願いしたい。</p> <p>○教職員アンケート結果において、日々の系統的なキャリア教育の充実が覗え、個々の生徒に適応したカリキュラムを引き続き提供できるよう展開していただきたい。</p> <p>○教職員アンケート結果において、良好で回答された項目は、学習指導・教科指導の内容が多く、学校の根幹となる学習内容を評価されたものであり、今後も、継続・発展にむけた指導運営に期待する。</p> <p>○教職員アンケート結果における評価の下がった教育環境・教科指導に関しては、充実・改善できるように取り組んでいただきたい。</p> <p>○教職員アンケート結果における課題については、教職員の育成に繋がる定期的な教科研修の検討であり、今後計画的な運営が必要となる。また、校務分担においても、分析結果に基づき改善されなければならない。</p> <p>○技能連携校のキャリア教育(技能連携科目)を共有し、個々の生徒に対応したカリキュラムの充実を図っていただきたい。</p> <p>○生徒への情報発信・提供については、学校運営に適したWeb利用の創意工夫が必要であり、日々の研修をとおして構築していただきたい。</p> <p>○リモートモデル事業を展開し、オンライン化による学習機能の拡充を目指しながら、Google Workspaceの運用を最大限に生かした向陽台高等学校の独自性を高めた教育内容の充実と展開を図っていただきたい。</p> <p>○生徒評価で大幅に改善された教育内容全般については、引き続き継続展開できることを期待する。</p> <p>○生徒の期待値に対して、日頃より教職員が応えながら対応していることがアンケート結果より覗え、これからも生徒に還元できる教育内容の充実を図っていただきたい。</p> <p>【まとめ】</p> <p>○昨年度と同様に高評価の水準をキープしている項目(生徒評価・教職員評価)については、大変評価できることである。これからも継続できることを大いに期待している。</p> <p>○学校全般における共通した課題・問題点については、研修等を通じて改善を図っていただきたい。</p> <p>○技能連携校との定期的な情報共有も続けていただき、各校運営の向上に対応できるよう期待している。</p> <p>○生徒の実態を把握しながら対応されている状況が覗え、学習環境を含めた学びの提供がアンケート調査に反映している。</p> <p>○オンラインを利用したGoogle Workspaceの活用の定着が見受けられ、これからもICTを活用した学習運営を推進していただきたい。</p> <p>○通信における学びの方向性が年々明確に示されている結果であり、評価される要因の1つでと考えると考えられる。今後、EdTechの運用を促進し、向陽台高等学校の新しい教育の方向性を構築していく姿勢は、大変評価できることである。</p>

4 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	まとめ（5月）
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 外的環境の変化による危機意識の共有と課題対応を図る 学校の特色づくり </p>	<p> (1) 変化を怖れず次の時代に挑戦する学校 ア 新たな向陽台体制の確立と学校デジタル化の推進・発信 イ 各コースの再編・整理と全国展開への具体的対応 ウ 技能連携校との連携のあり方検討 (2) 安全で安心できる信頼される学校 エ オンラインとリアリティーのバランスの取れた実践展開 オ 個別最適な学習を支える Google Work と学習ログとしての manaba の活用 カ 向陽台ホームページを活用した実践及び実績の発信 キ 学校基礎データの共有と全国通信制高等学校評価機構の認証取得 </p>	<p> (1) ア 5期6週制・授業料年額制の新たな体制の中で引き続き EdTech を活用し各分掌・各教科の業務や指導内容の整理、さらに授業・教育相談でより工夫した取り組みや配慮についてまとめ、共有し、向陽台の特徴・特色を発信する。受講登録の完全オンライン化を行う。 イ 特色ある取り組み等引き続き検討し、教務部を中心に類型別カリキュラム具体案を検討・定時。令和5年4月設置のオンラインコース集中型全国展開における指導体制、募集等への具体的な対応を図る。 ウ 技能連携校と連絡・報告及び教育内容等での EdTech の活用を図る。 (2) エ G Works 等を活用し各教科でオンライン授業での工夫とリアリティーのバランスを考えた指導事例のまとめと発信 オ G Works の活用を基に学園「LMS」の manaba 活用を図り学習ログの活用例の具体化を図る カ 向陽台ホームページからの発信をより一層進め、見やすくわかりやすいものとして教育活動の発信を図る キ 学校に係る数値データを「向陽台基礎データ」として事務長・学校支援部と連携し教職協働の観点でまとめ、共有する。 </p>	<p> (1) ア 受講登録の完全オンライン化とレポート等学校デジタル化の進捗。学校評価「本校の教育方針・理念の理解し共有している」達成度50%以上 イ コース再編年度計画の進捗状況とコース名の検討 ウ 学校評価「生徒や保護者のニーズに応じた教育活動」達成度80%以上 ウ 技能連携校との連絡・報告等でのデジタル化とオンライン配信の活用頻度 (2) エ 学校評価「生徒の実態を踏まえ指導方法や学習形態の工夫・改善」達成度80%以上 オ 学校評価「本校の教育課題について教職員で日常的に話し合っている」「研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会」での情報共有、研修等の役割で達成度60% カ 類型別カリキュラム等特徴ある指導内容等を含めた学校実践の発信。学校評価「ホームページで可能な範囲で情報公開している」達成度80%以上 キ 「向陽台学校基礎データ」のデジタル化による教学と事務での共有 </p>	<p> (1) ア 受講登録完全オンライン化、教務部中心に対応し定着(◎)学校デジタル化 Edtech 活用推進部により次年度レポート等オンライン化実施で対応。「教育方針・理念の・・・達成度47.6%」(○)「本校の教育課題について教職員で日常的に話し合っている71.4%」(昨年比18.4%増) イ 各コース再編の工程等議論と方向性案の提示及び全国展開コースは再検討、次年度課題(△)「ニーズに応じた・・・達成度78.6%」「特色ある・・・達成度83.3%」 生徒評価「他校にない特色ある教育活動が行われている86.8%」(○) ウ 役員会、主事会等会議でデジタル化の方向性再確認(○)とオンラインによる教材活用(△) (2) エ 多様性充実支援事業やパナソニック委託研究助成等も活用しながらまとめ作成で対応。「指導方法や学習形態工夫・改善・・・達成度85.7%」(○) 生徒評価「授業の教え方に様々な工夫をしている先生が多い82.5%」 オ EdtecPJ と連携して学習ログ manaba の活用について研修(×)令和8年度以降にブックロール等学習ログの導入を図る。「日常的な話し合いでの情報共有・・・達成度71.4%」「研修等の情報共有は40.5%」(昨年比16.2%増)(△) カ 広報に向けた類型別モデルカリキュラム等特徴ある学習内容の発信継続検討(×)SNS活用方法等を検討。「ホームページで情報公開・・・達成度81%」(○) キ 教職協働のもと学校基礎データ管理の一元化を教頭・事務長・事務部で集約(△)全国通信制高等学校評価機構より認証取得(○) </p>

<p>学 校 の 良 さ の 継 承 と 教 育 の さ ら な る 充 実 ・ 展 望</p> <p>学 園 及 び 本 校 の 未 来 を 託 す 人 材 の 育 成 と 学 園 ・ 学 校 の 良 さ の 継 承 と 教 育 の さ ら な る 充 実 ・ 展 望</p>	<p>(1) マネジメント力の育成と EdTech 活用力の向上</p> <p>ア 校内運営人材の確保と育成</p> <p>イ EdTech 活用等学校デジタル化に向けた人材の研鑽・拡大</p> <p>(2) 指導力・授業力等教育資質を高めるチャレンジの支援と実践発信</p> <p>ウ 新たな向陽台体制でのプラス思考の積極的評価と支援</p> <p>エ 新たな向陽台学校運営体制での若手・ドルリーダの活性化</p> <p>オ オンラインコース全国展開における積極的な教育実践</p>	<p>(1)</p> <p>ア 引き続き、分掌組織における各分掌長の引継ぎ人材の育成を図る。学校デジタル化の方針のもと資料等の引継ぎのデータ化・見える化を進める。</p> <p>イ 授業や教育相談での活用事例での工夫等のまとめと発信及び校内研修等の実施</p> <p>(2)</p> <p>ウ EdTech 活用の推進、学校デジタル化の教育実践と発信及び組織的支援</p> <p>エ 引き続き OnTheJob による人材育成と管理職によるマネジメント力育成と中期経営計画をもとにした研修ステージと評価の実施</p> <p>オ 必須教科と探究型カリキュラムの展開を工夫して Edtech プロジェクトと連携し指導体制を構築するとともに発信し募集を検討・実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 令和4年度新設「Edtech 活用学校デジタル化推進部」「オンライン全国展開・コース再編PJ」での成果と学校評価「教職員は職場全体の中での自分の役割を認識し行動している」達成度70%以上</p> <p>イ 学校評価「校内研修を企画・運営する組織が確立し計画的に研修が実施されている」での達成度40%以上</p> <p>学校評価「研研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている」での達成度40%以上</p> <p>(2)</p> <p>ウ 向陽台の特色として位置づけ、全体の経営計画に反映、組織的に発展させる。学校評価「日々の教育活動における問題意識や悩みについてを気軽に相談しあえるような職場の人間環境ができています」達成度70%</p> <p>エ 令和4年度、教職員体制での登用と評価の実施</p> <p>オ 令和5年4月全国展開コースの開始</p>	<p>(1)</p> <p>ア EdTechに係る人材採用を実施。学校デジタル化に向けた体制構築、受講登録のオンライン化実現。京大セミナー研修等学園で実施「自分の役割認識・達成度66.7%」(○)</p> <p>理事長確認の上、各校の必要とする人材の確保を図る方向で学園募集しても応募が極めて少ない。状況の改善が必要(△)</p> <p>イ 学校デジタル化、コース再編について検討を進め次年度が学校デジタル化、レポート等オンライン化、Web入試の実施で対応。「計画的研修・達成度45.2%」「成果の共有伝える機会・達成度40.5%(昨年度比16.2%増)」(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ウ 全国通信制高等学校研究会「放送教育研究指定」文部科学省「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」、「パナソニック奨励研究」年次のまとめを作成。リアリティとオンラインを活用した教育実践等進めた。「気軽に話し合える職場の人間環境・達成度64.3%」その背景として人間関係での「校内ですれ違った他の教職員とは気軽に挨拶したり、話かけたりしている83.3%」(○)</p> <p>エ 令和5年度の新たな校務運営体制に反映。学校デジタル化に対応する(◎)</p> <p>オ 「オンライン全国展開・コース再編PJ」で異なる才能のある生徒を対象とする案を作成した。再検討となる(△)</p> <p>「わかる授業」を目指し授業の組み立て等の準備を十分している90.5%(昨年度比14.5%増)</p> <p>「各教科において学習内容の基礎・基本を明確にし、教材の精選・工夫を行っている81%(昨年度比13%増)</p>
<p>学 園 一 本 化 に 向 け た 対 応</p> <p>一 体 感 の あ る 機 動 的 で フ レ キシ ブル な 組 織 づ く り と</p>	<p>(1) 校務分掌組織の運営体制の見直しと計画的移行による学校改革の推進</p> <p>ア 学園プロジェクトと連携した若手・中堅の活性化とアイデア等の具体化</p> <p>イ オンラインを活用した業務の見直しと中期経営計画の中での運営体制の構築</p> <p>(2) ミドルリーダーの権限と責任意識をもとにしたプロジェクトチームによる学校課題の解決</p> <p>ウ 学園プロジェクトチーム、学園教科会議等を活用した教員交流による生徒の学習の充実を図る具体策</p> <p>エ 組織における役割の明確化と働き方改革の推進による機能的・一体的・迅速的な組織づくり</p> <p>オ 技能連携校のEdTech活用とデジタル化の推進と教育圏域の拡大</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校課題等改革におけるプロジェクトの具体性のある対応案について運営会議での若手・中堅の意見反映と学校としてチームで実行する。</p> <p>イ 学校デジタル化を進め、教職協働でオンライン活用による業務の効率化を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ウ EdTech 活用を推進し5期6週制のなか新たな学習機会の保障として特色ある講座を具体的に進める。</p> <p>エ 指導の充実を図るための分掌組織の業務の徹底的な見直しを図り、共通化した授業時数の見える化</p> <p>オ Gworks 等を活用した技能連携校におけるオンライン授業やSNS教育相談を充実させEdtech活用を進めるとともに実践事例を教育圏域拡大にも活用する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校経営への反映。Edtech 活用、学校デジタル化、教育内容、カリキュラムへの反映</p> <p>イ 各分掌での教職協働による業務内容の整理とデジタル化の進捗。学校評価「教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携が行われている」達成度45%以上</p> <p>(2)</p> <p>ウ Gworks、manaba 等を活用できる教員80%以上及び学習機会を保障により生徒の受講単位数の増加と特色ある10講座以上開講</p> <p>エ 学校評価「教職員は職場全体の中での自分の役割の認識し行動している」「意見対立がある場合相手の意見を尊重し・・・」達成度60%以上及び新たな受講登録システムでの学校体制の確立</p> <p>オ 技能連携校協議会や主事会等でのEdTech活用の事例紹介、意見交換、企画推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 分掌会議から運営会議への意見反映・議論の流れが定着。オンラインレポート等学校デジタル化に向け令和5年度学校運営体制・予算編成に反映した。(○)</p> <p>イ 「Edtech 活用学校デジタル化推進部」を中心に教職協働での学校デジタル化を事務・学園総務と連携して対応できた。他の分掌等での連携が課題「教員。事務連携・・・33.3%」(△)</p> <p>(2)</p> <p>ウ Gworks の活用さらに進展、教務部で3年間のカリキュラムを整理・資料化し教務部中心の特色あるカリキュラム作成への体制づくりができた。(◎)</p> <p>生徒評価「学びたいと思える講座が多数ある81.3%」</p> <p>エ 令和5年度分掌組織の整理・教職協働を図る工夫等を実施。分掌での業務のデジタル化を進める「自分の役割・達成度66.7%」「相手の意見尊重し感情的にならずに話をしている・・・達成度52.4%」(○)</p> <p>新たな受講登録システムでの学校体制の確立(◎)</p> <p>オ 技能連携協議会で各校とのオンラインでの連絡・送付の徹底を図ることで了解。SNS相談アプリは中止、再検討(△)</p>

<p>EdTechを活用し全国展開する学校づくりと 学園の一本化による「向陽台ロマン」の実現を図る</p>	<p>(1)危機意識の共有と学校の特 色づくり ア 新たな生徒層に向けた EdTechを活用した学習者 主体の探究型モデルカリ キュラムの実践 イ 文科省委託事業を活かし た「22世紀の教育への挑 戦」を視野に新たな通信制 教育の検討 ウ 関係機関と連携した特色 ある講座の開講</p> <p>(2)学園の一本化を目指した取 り組みの推進 エ GoogleWorks の活用充実と ともに学習ログ学園 LMS 「manaba」による個別最適 な学びの場への移行 オ 進路指導における EdTech の活用推進と特色ある指導 のホームページへの発信</p>	<p>(1) ア Edtech プロジェクトと連携し た全国展開に係る新たな生徒層 を対象とした探究型モデルカリ キュラムの実践と向陽台におけ る探究型学習の実践とコース再 編の継続検討 イ 文科省委託事業（2年目）やパ ナソニック奨励研究（令和4年） 等のまとめ等に反映せる。放送教 育研究をまとめる。 ウ キャリア教育やEdtech 活用等 の充実を図る関係機関との積極 的な連携を推進と講座の開講</p> <p>(2) エ Gworks の活用を継続的に推進 すると共に学園 LMS の manaba へ の移行を進め、個別最適な学びの 構築と発信する。 オ 生徒・保護者への進路指導体制 等の発信と学校ホームページで の各コースの指導内容や特色あ る指導の発信し生徒募集等に 活用する。</p>	<p>(1) ア 通信制における主体的学 習や探究型学習等特色ある モデルカリキュラムの実践 と発信 イ 文科省委託事業「多様性 の時代に応じた新時代の学 びの充実支援事業」報告、 パナソニック奨励研究の発 表、全国通信制教育研究会 委託放送教育研究での発表 ウ 学校設定教科に位置付け た特色ある講座の開講 5 講 座</p> <p>(2) エ 個別最適な学びの場の視 点による Gworks 活用実践 のまとめの発信と manaba の活用。委託事業等の報告 に記載 オ 向陽台ホームページでの 各コースの特徴等の継続 的掲載</p>	<p>(1) ア 全国展開に向け「特定の分野に特異な才能を 持つ」生徒を対象に探究の学習モデル案を提示。 再検討 通信制における探究型モデルカリキュラムは継 続検討（△） イ Edtechを活用し多様性に応じた個別最適化の 学び指導モデルや異年代交流を通じたキャリア 教育モデルで全通研放送教育研究令和5年度近 通研発表、文科省「多様性に応じた新時代の学 び充実支援事業」3年次申請中、パナソニック 財団研究助成のまとめ作成（○） ウ トラック協会、大阪府商工労働部と連携継続 での講座、茨木市福祉関係部署との連携による 研修会も実施（○）</p> <p>(2) エ Gworks の日常的活用と実践をより進める。学 習ログの意義の再確認し新たな学習ログシステ ムへの再来年度を目途に対応する（×） オ より効果的な SNS 発信の方法を再検討。Web マ ガジン中止（△）</p>
<p>多様なニーズに応じた教育の EdTechを徹底活用した「学びを止めない教育」 を高める 「主体的学習を支える教育」を充実させ「未来の教室」を目指し「学校力量」</p>	<p>(1)ICT 活用による授業実践力 向上 ア より分かりやすい授業を 目指したオンライン授業や 指導方法工夫 イ 双方向アプリの実践集積 ウ 学校クラウドの検討</p> <p>(2)キャリア形成・就労支援の 指導力 エ 各コースの内容と特徴の 明確化と難関大学も含めた 進学コースでの実践とキャ リア教育モデルカリキュ ラムの検討 オ SNS 教育相談の周知とカウ ンセリング体制の確立</p> <p>(3)コミュニケーション力の向 上とカウンセリングマイ ンドの育成 カ 特色のある講座と G Suite や zoom 等を活用したオンラ インによる指導の工夫</p>	<p>(1) ア オンラインとリアリティを活 かした EdTech を活用した教育の 実践、工夫と早稲田摂陵の実践と の意見交換、教材等の共同作成 イ 各教科での双方向アプリ活用 での授業の工夫、課題等の整理と まとめ。教育相談やホームルー ムでの活用事例の集積。それぞれ文 科省委託事業やパナソニック奨 励研究に反映 ウ 学校クラウド案の継続検討</p> <p>(2) エ 令和4年度名称変更した進学コ ースの内容充実と民間事業所ニ ュートンクラブと連携した大学 進学指導内容の継続検討と早稲 田摂陵との意見交換の充実 オ カウンセリングを含めた生徒 窓口としてのアドバイザー体制 の確立と SNS を活用した教育相 談・進路相談の実施</p> <p>(3) カ 社会スキル等の講座やカウ ンセリング講座の充実、オンライン の活用とリアリティのバランス の検討及びオンライン教材の充 実</p>	<p>(1) ア 向陽台・摂陵教員の学園 プロジェクトや学園教科 会議を通じた教材の作 成。学校評価「視聴覚機 器等が活用されている」 達成度70%以上「指導法 や学習形態の工夫」達成 度70%以上 イ 実践事例のまとめ 学校評価「わかる授業を 目指し準備をする」達成 度90%以上 ウ 学校クラウド・学園クラ ウドの実施計画具体案の 検討</p> <p>(2) エ 学園プロジェクト・学園 教科会議による教材の作 成。 オ アドバイザー体制の構築 と SNS 教育相談等オンラ イン相談の実施 20 ケー ス以上</p> <p>(3) カ 学校評価「本校への満足 度」及び「学びたい講座 がある」生徒満足度80% 以上</p>	<p>(1) ア 学園の EdTechPJ が課題別の3グループで学 園全体の Edtech を推進することとなる。「視聴 覚機器等活用・・・達成度83.3%(昨年度比25.3%)」 「指導法、学習形態工夫・・・達成度85.7%(昨 年度比10.7%)」 生徒評価「授業の教え方で様々な工夫をしてい る先生が多い81.3%」(◎)</p> <p>イ 文科省委託事業やパナソニック奨励研究での まとめ作成。「わかる授業・・・達成度90.5%」 生徒評価「授業は私にとってわかりやすい 88.0%」(◎)</p> <p>ウ 総務部を中心に作成した学園ホームページの 成果から学園クラウドへの検討継続（×）</p> <p>(2) エ 学園の教科会議を1回実施。教材作成（△） 向陽台のニュートンクラブの活動を紹介等進 路に関する選択しの紹介（○） 生徒評価「進路希望に応じた多様な講座が用意 されている89.4%」</p> <p>オ アドバイザー体制、SNS 相談体制から令和5年 度学園相当制に転換し支援体制の充実に移行 （△） 生徒評価「先生は生徒の悩みや相談に丁寧に対 応してくれる88.4%」</p> <p>(3) カ リアリティとオンラインのバランスも視野に 多様なニーズに応じた指導方法を各教科で提供 （○） 生徒評価 「私は学校での生活に満足している89.2%」 「本校には自分が学びたい講座が多数ある 81.3%」 「本校には他校にはない特色ある教育活動が行 われている86.8%」</p>

<p>「向陽台コンソーシアム」の発想に基づき関係機関等と連携したキャリア教育を充実させ、特色ある教育の充実と発信</p>	<p>(1) 向陽台ホームページの充実と本校の特色ある授業・行事等 Web 発信力を高め、社会的意義・役割の周知と協力関係の構築</p> <p>ア web 発信による向陽台のスクールポリシーや類型別カリキュラム等教育内容や学校生活等の紹介</p> <p>イ 技能連携校向陽台総合学院(松阪市)の地域一体地域循環還元型教育の発信</p> <p>ウ 向陽台コンソーシアムをもとにした異年齢等も含む新たなインクルーシブ教育の発信</p> <p>(2) 向陽台総合学院での EdTech 活用支援</p> <p>エ オンラインによる授業の実施</p> <p>オ 関係事業等の連携</p> <p>(3) 学校力量を高める教育連携の推進</p> <p>カ キャリア教育等に係る事業所や大学、e-スポーツ関連事業や凸版印刷等 Edtech 活用を図る事業所との積極的な連携と教育圏域の拡大に向けた対応</p> <p>キ 文科省委託事業「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」3年計画(令和3年受託)の実施とまとめ及びパナソニック奨励研究でのキャリア教育の視点のもと異年齢集団における協働の学びでの Edtech 活用・教材作成。全国通信制高等学校研究会委託の放送教育研究のまとめ・発表</p>	<p>(1)</p> <p>ア 授業料改定に伴う向陽台の特色、類型別カリキュラム等教育内容の理解推進や行事、部活動等の紹介及び生徒による発信支援</p> <p>イ 地域一体地域循環型教育に係る地元との連携事業の紹介</p> <p>ウ 茨木市と連携した義務教育段階の不登校生徒への興味・関心から意欲づくりへの指導方法の共同研究の継続と高齢者含む異年齢での共同の学びの検証</p> <p>(2)</p> <p>エ ICT活用を進め、本校授業へのオンライン参加の試行</p> <p>オ 交流事業や関西カウンセリングセンターと連携した相談事業の継続実施への支援</p> <p>(3)</p> <p>カ 大阪府と連携した次の時代に対応する事業所との連携並びに生徒のニーズに対応した特別講座の開設</p> <p>キ 22世紀型教育での通信制高校の可能性を視野におきながら「受け止め、支え、気づき・気づかせ、伸ばす」個別最適な学びにつながる各研究の報告作成。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 類型別カリキュラム等教育内容の発信、向陽台の指導特徴の発信、行事等を中心に発信回数10回</p> <p>イ 地域との連携事業紹介 3回</p> <p>ウ 参加市教委等5市と市教委等との意見交換会の実施と実践のまとめ。パナソニック奨励研究発表</p> <p>(2)</p> <p>エ 向陽台総合学院のオンラインを含む実践での支援の内容明確化</p> <p>オ 関連事業への参加</p> <p>(3)</p> <p>カ 本校での特別講座3講座開設</p> <p>キ 文科省委託事業での委託継続(3年目最終年)。パナソニック奨励研究の報告書と発表。放送教育研究会の発表</p>	<p>(1)</p> <p>ア 向陽台HPや向陽台通信等での理解推進を進めた(○)</p> <p>イ 6月より向陽台総合学院長を置き松阪市等地域連携深まる。生徒募集が課題。3年目を迎える校長としての総括の年となる。(△)</p> <p>ウ 茨木市との高齢者含む異年齢の共同の学びを実施できた。継続的な対応体制もできた(○) 学校ホームページ等活用したパナソニック奨励研究成果の共有を次年度実施</p> <p>(2)</p> <p>エ オンライン授業を日常的に実施。基礎的学習のオンライン授業コンテンツが2年分できた(○) 本校教員数減少のため次年度集中スクーリング方式になる。</p> <p>オ 地元自治会の行事等への参加機会や地域連携講座等松阪市との連携はより強固になった(○)</p> <p>(3)</p> <p>カ 「未来の教室」受託事業 AiGrow の総合的な学習オンライン教材やVRやAR教材に関してトッパンとの連携事業を推進した。関連講座、研修等5講座実施(○)</p> <p>キ 実践研究を実施、文科省委託事業「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」での3年目の継続研究を申請・受託となる。「パナソニック奨励研究」のまとめ作成。「放送教育研究会」研究報告は令和4年度近畿地区高等学校通信制教育研究会で発表、令和5年度全国高等学校通信制教育研究会(6月)で発表予定。全国通信制高等学校評価機構より第三者評価としての文科省の通信制高等学校ガイドライン及び通信制高等学校規定を順守した教育の質保証に対応している「認証」を取得。令和5年4月1日より認証校となる。広報等活用・発信を進め技能連携校にも図る。</p>
--	--	--	---	---